

知って備える 防災メモ 第92回

災害時の基本は『危険から遠ざかる』

海、山、川が身近にある登別市では、津波や洪水、土砂災害、火山噴火など、さまざまな種類の災害が発生する可能性があります。災害から身を守るための基本は、『できるだけ早く危険から遠ざかること』です。被害が及ぶ前に安全な場所への避難を完了することで、避難を逃れる可能性が高くなります。多くの時間を過ごす自宅や学校、職場などにどのような危険が潜んでいるのか、どこが避難場所や避難所に指定されているのか、どのような災害からの避難に適しているのかなどを日頃から確認することが、自分や家族を守る備えになります。

安全な場所は避難所だけでは限りません

災害の種類や発生状況によって、避難先は変わります。

○洪水や土砂災害の場合

危険が迫っているときには躊躇なく避難することが第一ですが、感染症のリスクも考慮し、市が開設する避難所のほか、自宅や親せき、友人宅などで最も安全・安心と思われる場所に避難してください。また、台風が接近した

場合など、事前に災害発生の可能性を把握できたときには、ホテルなどに宿泊し、安全を確保する方法もあります。

○津波の場合

速やかに高台に避難してください。もし、高台までの避難が間に合わないと思われるときには、近くにある津波避難ビルなどの高い建物に避難し、なるべく高いところまで上る『垂直避難』をしてください。

市から発信する情報を常日頃から

市は、災害が発生するおそれがある場合などに、避難指示や避難所開設情報などの防災情報をさまざまな手法で発信しますので、ご確認ください。



▼問い合わせ
総務グループ (☎01130)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

布の絵本ボランティアの会



あたたかみのある作品を一緒に作ってみませんか

『布の絵本ボランティアの会』は、昭和52年8月、登別市社会福祉協議会主催のボランティアスクールを受講した方が中心となり、『登別市ボランティアの会』として発足。その後、布の絵本作りが活動の中心になったため、活動内容が分かりやすいように、平成19年度に名称を『布の絵本ボランティアの会』と改めました。現在のメンバーは11人で、毎週金曜日の10時から14時30分まで、しんた21で活動しています。

「和裁や洋裁の腕を生かして、さわっても楽しめる、ふわふわとした布の絵本やお手玉などを製作し、子育てサロンやデイサービスなどに貸し出している

に喜んでもらえることが何よりもうれしいですし、やりがいを感じる瞬間の一つです。メンバー同士で教え合いながら作品を作るので楽しいですよ」と活動の魅力を話してくれました。

作品の材料となる、小豆や使用しなくなった布地などの寄付も募っている同会。活動に興味のある方や見学を希望する方は、代表の堀切さん(☎090-1595817473)まで。

ほか、子育て支援センターや図書館、のぞみ園などに作品を寄贈しています」と話すのは、代表を務める堀切智恵子さん。

市内小学校の特別支援学級などの支援として、学習教材の製作も受け付けているという堀切さんは「自分たちの作品が子どもたちや保護者、施設の方などに喜んでもらえることが何よりもうれしいですし、やりがいを感じる瞬間の一つです。メンバー同士で教え合いながら作品を作るので楽しいですよ」と活動の魅力を話してくれました。



▲アイデアを出し合いながら作品作りに精を出すメンバー
▶布の絵本やボールで遊ぶ子どもたち

